2023 年 5月21 日発行　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻 7946 号
ＳＳＴＫ　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(1)

SSTK さくら草だより

発行人:埼玉県障害者団体定期刊行物協会
〒332-0851
川口市芝新町15-9アステール藤野1階
電話:048-261-5667　頒価:50円

編集人:社会福祉法人さくら草
〒336-0015　さいたま市南区太田窪3501-2
HP:http://www.sakuraso.net/ 電話:048-813-7426
Fax:048-8866301 E-mail:info@sakuraso.net

日本財団 様

ありがとうございました

第63号

もくじ

1，新車両紹介
2、さくら草　春PHOT
3、クローバーハウス
4，かりん丸中施設長の話

2023年3月末、日本財団様より福祉車両１台を支援していただきました。有難うございます。新車両名は

【シン格さん号】

長年頑張ってくれた「格さん号」が引退したので、その名を引継ぎこの名前になりました。この車両は、主にデイセンターさくら草の送迎車として使用させていただきます。最新の安全装置付き車両の優れものです。大切に使用させていただきます。

広報誌の封入作業は　デイセンターアトム・アトム班が担当しています

2023年　5月　21日発行　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻　7946号

ＳＳＴＫ　　１９８３年7月１９日第三種郵便物承認(2)

SAKURASO HARUNO PHOTO MATURI

COSUMOSU SANNPO DAISUKI

TYOTTO TERETYAU

ATOMU SAKURA HANAMI DEOKURETA GIRIGIRI MANIATTA

SAKURASO ITIBANN NO BIZYO

HANN NO WAKU NANNTE KANNKEINAISA

USIROSUGATA IINE

ANNKUZI NI KIREINA SAKURA SAKIMASITA

SHOT BEST FUTABA

NANNKA KAKKOIIYO

2023年　5月21日発行　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻7946号
SSTK　1983年7月19日　第三種郵便物承認（3）

さくら草グループホーム
クローバーハウス

今回は さくら草グループホームのクローバーハウスの利用者さんの御家族にインタビューしました。クローバーハウスを利用される前、利用を始めてから現在に至るまでの御家族の不安、考え、利用者さんの変化などをお答えいただきました。グループホームの利用を考えている方々の参考になればと御協力していただきました。

Q1.グループホームを利用したいと思ったきっかけは？

●親が高齢になり（利用する）本人も一人では 生活できない。他の利用者さんと一緒なら楽しく　生活できるのでは、と思ったから

●（利用する）本人の希望

●親が亡くなった後の（利用者の）生活の不安から

Q2. 利用するにあたり心配だったことは？

●他の利用者さん、職員に迷惑をかけないか
●言葉や会話が少ないので皆の輪の中に入れるか
●支援者に自分の子を理解してもらえるだろうか
●親亡き後、最後まで利用できるかどうか

Q3.クローバーハウス開所から5年が経ち利用者さんに変化はありましたか

●生活面の向上、情緒の安定、独立心もみられ、周囲の人達の事も考えられるようになった

●大人になった気がする（成長がみられた）

●家族で生活していた頃より話す事が少なくなっている

Q4.現在グループホームでの生活に不安を感じることはありますか

●ホームの職員不足で毎日利用できない事

●親が亡くなった後が不安

Q5.これからのグループホームに期待することはありますか

●（土日祝日も）利用できるようにして欲しい
●皆で楽しめる生活のメニューがあったら良いと思う
●今まで通りで良い

グループホームでの支援は通所施設の場とは違い利用者様それぞれの特性を考えながら暮らしのお手伝いをする場と考え強制的に皆さん一緒に行動してもらうという事はしていません。一人で過ごしたい、テレビを観ながらゆっくり過ごしたい、好きな事に没頭したい等、それぞれの時間があります。共同生活なので消灯、起床時間などのルールは多少ありますが利用者の皆様が自分らしく過ごして頂ける場所になるよう心がけながら支援をしています。

（御家族から）ちょっと言わせてのコーナー

山本理事長、親の住むホームも是非作って下さいお願いします

さくら草グループホーム・クローバーハウス

2023年　5月　21日発行　　毎月12回（1と3と5と7のつく日）　通巻番号　7946号
SSTK　1983年7月19日第三種郵便物承認（4）

【GIVE &TAKE】

ゆずの所長となり、またその後かりんの施設長となり、立場的に「上に立つ」ことになった。
そんな中で、「さぞストレスが多大ではないか？」「体調は大丈夫か？」などと心配してくれる声もある。
自分ではそんなにストレスとは感じずに、自分ができる仕事、与えられたことをただ続けてきただけ。
そして続行中！！
自分は出来ないことも、苦手なこともいっぱいあるし、「わ～めんどう～」と書類を投げ出したくなることもある。

ただ、いつも必ず助けてくれる人がいる。私も「手伝って！」と言ってしまう。
それは、上に立つ人だからとか関係ないかもと、図々しく勝手に思っている。
仕事に集中するのも好き、人に頼られるのも好き、
クタクタになって寝るのは最高に気持ちいい。
自分が笑っていられるのがいい、自分のくだらない話を聞いてくれる仲間がいるのがいい、

山本理事長のように硬い文章は書けない。きっとこの文章も簡単な言葉で書いている。自分が理解できるようにと・・・

支援の仕事でお腹を抱えて笑えることがたくさんある。この際しっかりしわを作り、声を出して笑って喉を鍛えておこう！（笑）

ちょっと頑張る、ちょっと踏ん張る、わからない時、ちゃんと聞く。
「ごめんなさい」今まで、これからも、しつこく聞いてしまった方たち。理解の足らない自分で・・・

かつて、20歳の若いころのOL時代、上司から「まったく丸ちゃんは～」とからかい半分怒られ、仕事を丁寧にこなすことの大切さを教えてもらう中で、しっかりお叱りを受けた。
俗に言うお局様から、女性は朝の掃除からお茶くみまで（こんな風習は今はないだろうね）
を教えて頂いた。
厳しいけど生意気な娘を可愛がってくれた。
とっても大きな懐の中で、素敵な大人が周りにはたくさんいたのだと、今、改めて思い出す・・・

『私を信じて働かせてくれたんだ』と。
さて、今の自分はどうだろう？自問自答してみる。

ありのままの素直な私でいられる環境がありがたい。
そんな私を受け止めてくれている仲間がいるのがありがたい。

これから『長』とつく立場になるかもしれないあなたに、私から言えることは、
「肩の力を抜いて、時には常識からはずれてもいいと思う。つらい時もある、でも信頼関係が必ず自分を助けてくれる。喜んで人の力を借り、喜んで人の力になり、自分自身に多くを望まず、期待しすぎず、中道を行こう。たまにアクセル踏んで、たまにニュートラルにして。」

サポートゆず・デイセンターかりん
丸中　愉可